大台診療班回想録

昭和41年卒　東條俊二

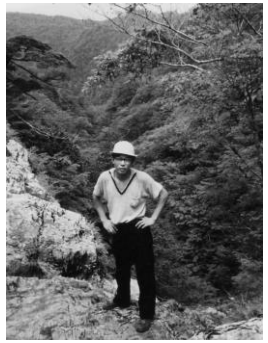
- 大台診療班の学生参加は第一回が昭和35年で、西藤守雄先生（昭和38卒、内科）が中心でした。当時、大台ケ原への道路が建設中で筏場から登山道3時間程度を登って大台ケ原の大台教会（自然を敬う教会）にたどりつき、教会の庭にテントを張って簡易診療所を夏季限定で開設しました。数名の医師が交代で診療にあたりました。
- 翌年大台ケ原ドライブウエイが出来てバスで行けるようになり、駐車場脇に蒲鉾ハウスで我々ワンゲル部員のお手伝いで夏休み中診療にあたりました。

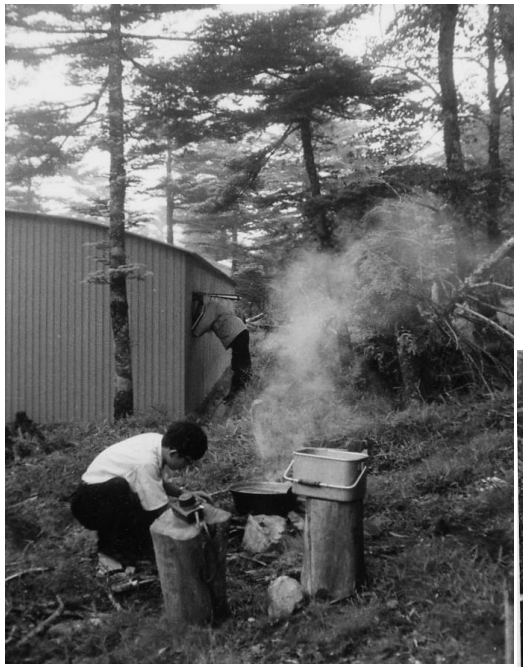
- 私（東條俊二）も毎年1週間は大台で過ごしました。駐在さんと親しくなり罠にかかったカモシカのすき焼きをいただいたり、開拓と言う昔の土地でイワナの手掴み、大台協会の持ち主のおじいさんから登山者相手に犬を横に大台ケ原の怪談などを聞かせてもらいました。真に迫った名演技であったと思います。いろんな話が在りましたが、なんといっても'いっぽんだたら'の話は地元だけではなく熊野方面にも有名な伝説で、西藤先生が録音するとか言っておられました。 叔母峰峠に果ての20日（12月20日）に出没した背中に笹のはえたイノシシの妖怪で地元の猟師が退治しようとして、ケガをさせたが、のちに熊野の温泉に出現したとか。他、夜に木の太い枝に首だけ乗っかっている女のお化け、夜間テントを張っていると、こんころりん、こんころりんと音が鳴る（多分狸の仕業）etc。　　大台に滞在中、三重県側の桃の木小屋で発生した病人を担架で半日かけて大台側に担ぎ上げたり、われわれが初回に行った前年には死亡者が出てテントを張っていた場所に埋葬されていた話を後から聞いてびっくりしたり、夜中に中年のおばさんが登って来て連れが途中で動けなくなって助けてくださいとの事で、砂糖水を作って1時間くらい下り、蛍の飛び交う登山道で発見し上までお連れしたり、この方は翌日祇園祭に行くとかでまた遠い三重県側の大杉谷へ下りてゆかれました。
- 1週間の診療助手の後は、三重県側の桃の木小屋で一泊徒歩で下界へ、また三重県の船津へ下山して登山と海水浴も楽しみました。

大台ケ原

大杉谷

奈良医大診療班一行

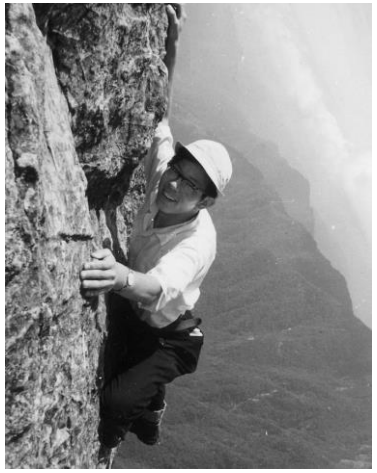


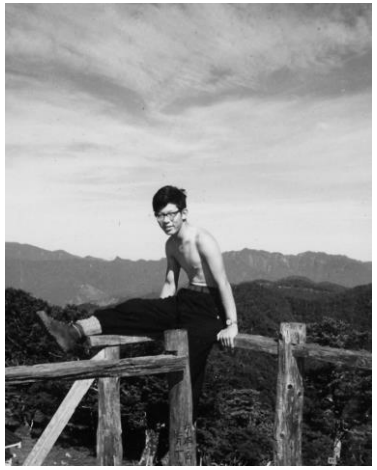


大台ケ原

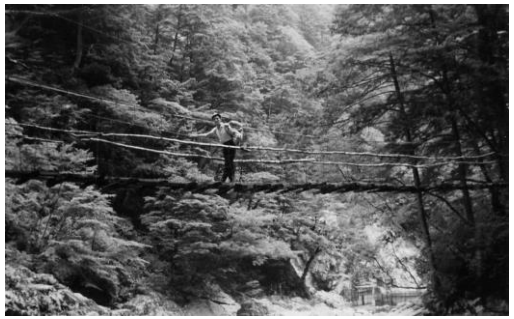
大杉谷

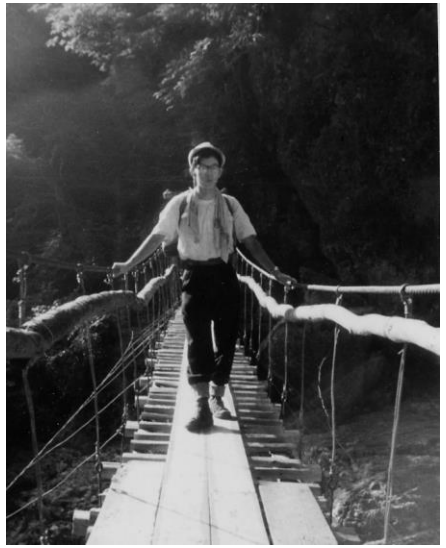
奈良医大診療所





見事な大杉谷





学生も参加していました

写真提供　東條俊二氏（S41 年卒）